

亜熱帯産の食用ハーブ

ローゼル南魚沼の特産に

南魚沼市の地域振興企画会社「インターウィンドウ」は、亜熱帯産の食用ハーブとして知られるローゼルの栽培を、市内に広げる事業を始めた。事業に協力する市内の農場「みわ農園」の畑では、市総合支援学校の中学生徒18人が苗木100本を丁寧に植えた。インターウィンドウの中俣政利社長(55)は「南魚沼の新しい産物になれば」と期待を寄せている。



ローゼルの苗木を丁寧に植える総合支援学校の生徒たち。南魚沼市大月

地元企業が種子提供 協力農場、苗100本植える

ローゼルは東南アジアやエジプトで栽培されるハーブで、クエン酸やミネラルを豊富に含む。高さ2メートルほどに育ち、実などはハーブ茶「ハイビスカス・ティー」の材料になり、疲労回復や美容に良いとされる。赤い茎は染色にも使われる。

中俣社長は昨年、知人から種をもらい、南魚沼市内で露地栽培に成功した。「雪国の亜熱帯ハーブとして地域振興に生かしたい」と、ことしは希望する生産者に種子を無料で提供することを決めた。

収穫は秋以降で、市内の北里大学保健衛生専門学院にローゼルを使ったメニューを考案してもらう。

総合支援学校の生徒が植えたのは15センチほどに育った苗木。中学部2年の山口出海君は「南魚沼では初めて植える植物なので、すくす

く育ててほしい」と小さな苗を見詰めた。みわ農園の三輪弘和代表(38)は「日光がよく当たるように剪定してやれば、肥料もあまり必要がなく管理しやすい。市内に多くある耕作放棄地の栽培作物としても適しているのでは」と話していた。